

平成27年度総会・全国研究集会の日程

平成27年5月8日現在

期 日：平成27年6月22日（月）・6月23日（火）

会 場：機械振興会館（東京都港区芝公園3-5-8）

共 催：（一財）機械振興協会

後 援：国立国会図書館、（公社）日本図書館協会、国立研究開発法人科学技術振興機構、（一社）情報科学技術協会（予定）

時 間	事 項	行 事 内 容	会 場	
理事会・総会				
11:10~11:50	理事会		5S-2会議室	
13:00~13:20	総会受付		B2ホール	
13:20~14:20	総会・表彰式			
全国研究集会				
総合テーマ『未来に続く専門図書館を目指して』				
<p>専門図書館協議会は一元化を踏まえ、専門図書館界のプラットフォームとなるべく活動を進めています。専門図書館界を取り巻く状況は日々刻々と変化しています。専門図書館には、常に社会環境や情報環境の変化に即応した運営が求められており、専門図書館員のあり方や新たな情報資源への対応など課題は山積です。</p> <p>そうした中、専門図書館の未来につながる胎動は始まっています。全国研では、多様な課題を解決するためになるさまざまなテーマを研究・検討し、未来への入り口を探し出します。</p> <p>ぜひ多くの専門図書館関係者が参加し、ともに考えるための研究集会を作り上げましょう。</p>				
6 月 22 日 (月)	14:40~15:10	開会式	開会挨拶 中村理事長 来賓挨拶 国立国会図書館 館長（予定） 日本図書館協会 理事長（予定） 科学技術振興機構 理事長（予定） メッセージ SLA、KSLA	B2ホール
	15:10~15:40	協賛会社 メッセージ	丸善(株)、(株)ブレインテック、日経BP社	
	15:40~15:50	休 憩		
	15:50~17:20	記念講演	山形 浩生氏（翻訳家・評論家） 「ピケティ『21世紀の資本』と日本への示唆」 ポール・クルーグマン教授（プリンストン大学）をして「本年度、いや、この10年で、最も重要な経済学書になると言っても過言ではない」と言わしめた『21世紀の資本』の日本語版の翻訳者であり評論家の山形浩生氏が同書を読み解きます。	
	17:20~17:30	休 憩	会場移動	
	17:30~19:00	交流会	会員相互と協賛会社との交流の場	

時 間	行 事 内 容		
	第1分科会	第2分科会	第3分科会
9:30 ～ 11:30	専門職業人のための 情報リテラシー支援	震災記録とデジタルアーカイブス	どうなる著作権、企業図書館の 現場から考える
	「専門職業人のための学術情報 リテラシー支援とその効果」 中央大学学事部学事課 梅澤 貴典 氏	① 「東京電力福島第一原子力発 電所事故関連情報アーカイブ 化の取組」 国立研究開発法人日本原子力 研究開発機構 米澤 稔 氏 ② 「国立国会図書館東日本大 震災アーカイブひなぎくの 取組」 国立国会図書館電子情報部主 任司書 諏訪 康子 氏	① 電気化学工業株式会社 渡辺 喜代美 氏 ② 株式会社日本電気特許技術情 報センター 新倉 弘幸 氏 ③ 朝日新聞社 藤本 亮司 氏
11:30 ～ 13:00	昼 食		
13:00 ～ 16:00	第4分科会	第5分科会	第6分科会
	ビジネスライブラリーの これから	オープンサイエンスと 研究データ公開	専門図書館員のためのディスカバ リーサービス講座：活用と課題
	① 「歴史コミュニケーション と企業資料」 渋沢栄一記念財団情報資源 センター 松崎 裕子 氏 ② 「ゼロから生み出したサー ビスを広める方法～会員制 図書館を3年続けて伝えら れること～」 ビズライブラリー 福岡 南海子 氏 ③ 「専門図書館と公共図書館 の連携が生み出すもの」 鳥取県立図書館 小林 隆志 氏	① 「オープンサイエンスの動 向とこれからの研究データ」 科学技術動向研究センター 林 和弘 氏 ② 「東寺百合文書のデジタル化と ウェブ公開」 京都府立総合資料館 小森 浩一 氏 ③ 「研究データの発信に向け て：『ホームページによる情 報発信』の次を考える」 国際農林水産業研究センタ ー 林 賢紀 氏	① 「ディスカバリーサービスの 導入経過と現状、そして可能 性」 立命館大学図書館 安東 正玄 氏 ② 佛教大学図書館 飯野 勝則 氏

6
月
23
日

(火)

分科会の概要（午前の部：6月23日（火）9:30～11:30）

第1分科会

「 専門職業人のための情報リテラシー支援 」

現代の図書館は、電子ジャーナルや各種データベース等も提供していますが、利用者側には「大量の情報が無料で手に入るネットがあれば、図書館は不要」との誤解も多くなっています。専門職業人が問題解決策を導き出すには典拠の示せる情報の収集能力が不可欠ですが、それを支援する図書館側にも、公的機関のデータベースにも精通するなど、従来とは異なる能力が求められています。各館のミッションに必要な専門知識に加えて、複眼的な調査方法を提案できる職員が多く育てば、図書館の存在意義は拡大します。

本分科会では、MBA取得を目指す社会人向け経営大学院（ビジネススクール）に向けた支援などの事例から、デジタル時代における専門職向け情報支援の可能性を探ります。

梅澤 貴典 氏（中央大学学事部学事課）

司会：森 未知（（独）国立女性教育会館） 運営：柳 一美（株式会社日立製作所）

第2分科会

「 震災記録とデジタルアーカイブ 」

東日本大震災は広範囲な地域に甚大な被害をもたらしています。地震、津波、原子力発電所事故による被害からの復興はまだ途上にあります。被災の記録と復興過程に関する資料は多様で広範囲に存在していますが、これらの資料を復興に活かし、次の災害に備えるために、私たち図書館に携わる人は何ができるのでしょうか。

本分科会では、東日本大震災に関する資料を精力的に収集し、デジタルアーカイブとして提供する2つの事例から学びたいと思います。

① 米澤 稔 氏（国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 研究連携成果展開部科学技術情報課）
「東京電力福島第一原子力発電所事故関連情報アーカイブ化の取組」

② 諏訪 康子 氏（国立国会図書館 電子情報部主任司書）
「国立国会図書館東日本大震災アーカイブひなぎくの取組」

司会：田村靖広（（公財）後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館） 運営：高田繁則（キハラ株式会社）

第3分科会

「 どうなる著作権、企業図書館の現場から考える 」

企業図書館での著作権については、著作権法第31条で大半が処理できる公共図書館とは様相が異なります。一般的には、著作権管理団体（（一社）学術著作権協会など）との契約により、企業内の著作権を一括処理することなどで対応しています。また、製品開発など先端技術を取り扱う場合、電子ジャーナルの扱いも重要です。

さらに、現在進行形で、TPPなど著作権や地財を取り巻く環境も激変しています。このような企業図書館で見られる著作権に関する課題を、現場の視点から事例発表を行い、その後意見交換することで、企業図書館での著作権に関する課題を考える分科会とします。

① 渡辺 喜代美 氏
（電気化学工業株式会社）

② 新倉 弘幸 氏
（株式会社日本電気特許技術情報センター）

③ 藤本 亮司 氏（朝日新聞社）

司会：高土正己（専図協事務局次長/機関誌委員会委員長） 運営：関口陽一（専図協著作権委員会委員/㈱日本政策投資銀行）

第4分科会

「 ビジネスライブラリーのこれから 」

今、図書館は専門図書館、公共図書館、大学図書館といった館種を問わず、変化を求められている時代であるといえます。従来図書館における変化といえば、本から電子資料へといった「メディアの変化」の類いの印象が強いのですが、昨今ではサービスであるとか、図書館そのもののあり方、などさまざまな面で変容が求められています。

それはビジネスライブラリーにおいても同様です。この分科会では①アーカイブ史料のビジネス現場での活用②個人が立ち上げた会員制図書館という新たな図書館の試み③ビジネスをキーワードのひとつとして、専門図書館と公共図書館との連携を図る情報ナビゲータ交流会というテーマで報告を行い、多角的な視点でこれからのビジネスライブラリーを考えてみたいと思います。

① 松崎 裕子 氏（公益財団法人渋沢栄一記念財団情報資源センター）
「歴史コミュニケーションと企業資料」

② 福岡 南海子 氏（ビズライブラリー）
「ゼロから生み出したサービスを広める方法～会員制図書館を3年続けて伝えられること～」

③ 小林 隆志 氏（鳥取県立図書館）
「専門図書館と公共図書館の連携が生み出すもの」

司会：結城智里（(一財)機械振興協会） 運営：吉崎 保（千代田区立千代田図書館）

第5分科会

「 オープンサイエンスと研究データ公開 」

公的研究資金による研究成果を科学界、産業界だけでなく社会一般から広く容易にアクセス・利用を可能とする研究開発の進め方である「オープンサイエンス」の重要性が高まっています。また、2015年4月に内閣府より公開された報告書「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」においては、従来の論文のオープンアクセスに加え、研究成果のエビデンスとなる研究データの公開についての議論と具体的な取り組みの必要性が指摘されています。

この分科会では、この①オープンサイエンスの最新の動向や、②データのオープン化とその活用の実際、また③これまで行われてきたホームページによる様々な情報発信と研究データ公開の違いについて、多彩な主題領域を持つ講師をお迎えして議論します。

① 林 和弘 氏
（科学技術・学術政策研究所
科学技術動向研究センター）
「オープンサイエンスの動向とこれからの研究データ」

② 小森 浩一 氏（京都府立総合資料館）
「東寺百合文書のデジタル化とウェブ公開」

③ 林 賢紀 氏
（国立研究開発法人国際農林水産業研究センター）
「研究データの発信に向けて：『ホームページによる情報発信』の次を考える」

司会：齋藤久実子（神奈川県立川崎図書館） 運営：木村美実子（国立研究開発法人 科学技術振興機構）

第6分科会

「 専門図書館員のためのディスカバリーサービス講座：活用と課題 」

ディスカバリーサービスは、日本国内においても、大学図書館でその活用が広がっていますが、専門図書館では、これから導入するケースも多く、関心の高いサービスのひとつとなっています。本分科会では、これからディスカバリーサービス導入を検討する専門図書館員のためにディスカバリーサービス講座を開催します。「ディスカバリーサービスとは何か」、「その導入と利活用にあたって、知っておくべき基礎知識」、「具体的な活用事例」、「最新動向」、「課題」などについて、理論と実践の二つの観点からお話させていただきます。

講師には、日本で、他大学に先駆けてディスカバリーサービスを導入し、同サービスの最前線に立つ、立命館大学図書館の安東正玄氏と佛教大学図書館の飯野勝則氏のお二人をお迎えします。

ディスカバリーサービスに関する疑問を解消し、積極的な活用へとつなげていきませんか。

① 安東 正玄 氏（立命館大学図書館）

② 飯野 勝則 氏（佛教大学図書館）

司会：村井友子（(独)日本貿易振興機構アジア経済研究所） 運営：豊島京子（(公社)全国市有物件災害共済会防災専門図書館）